

安寧の都市とは何か

谷口栄一 安寧の都市ユニット長

『安寧の都市研究』の第1号を発刊することになった。この機会に安寧の都市の理念について考えてみたい。

京都大学工学研究科、医学研究科が共同で運営にあたる「安寧の都市ユニット」が設置されてから約1年が経過した。この間に安寧の都市とは何かについて、さまざまに議論してきたが、2011年3月11日の東日本大震災の発生などの事象を踏まえて、ここで少しまとめてみよう。

米国のAARP (American Association of Retired Persons) は、居住性の高いコミュニティ (Liveable community) を次のように定義している。

「居住性の高いコミュニティとは、経済的に維持できる適切な住宅、お互いに助け合うコミュニティの気風とサービス、適切な交通手段選択があり、これらの要素が混じり合って、個人の自立と住民の市民的社会的生活への参加を容易にするようなコミュニティである」

この居住性の高いコミュニティは安寧の都市の重要な要素であるので、この定義をベースに、安寧の都市で考えている安心安全の要素と医療、介護、福祉サービスおよび個人が生き生きと活動することの価値を考慮すると、安寧の都市を次のように定義することができる。なお、この定義はひとつの試案であり、これからの議論や実践を通じて変更もあり得る。

「安寧の都市とは、自然災害やテロ、犯罪、感染症などのリスクの軽減と災害時の素早い回復に対して十分な対応がなされ、経済的に維持できる適切な住宅、お互いに助け合うコミュニティの気風とサービス、適切な教育、医療、介護、福祉、交通サービスがあり、これらの要素が混じり合って、個人の自立と住民の市民的社会的生活への参加を容易にし、安心安全かつ健康で生き生きと活動できるような都市である」

安寧の都市において重要な事柄は、まず、自然災害やテロ、犯罪などの人的災害、感染症などによるパンデミックのリスクを軽減し、災害が発生した場合にも素早く復旧・復興できるようになっていることである。このことによって基本的な防災に関する安心安全が確保できる。東日本大震災においても、災害による被害軽減と同時に災害後の素早い復旧、復興の重要性が認識されている。防災以前の問題として、国としての国防に関する安全保障の問題がある。これについてはここには記述していないが、いうまでもなく大前提となっている。

次に、住む場所としての住宅を経済的に維持することは生活の基本的要素として必要である。コミュニティについては、日本の伝統的コミュニティが崩壊している地域もあり、お互いに助け合うコミュニティの新たな構築が安寧の都市の基本である。そのためには住民どうしのコミュニケーションと参加がキーワードとしてあげられる。高度な教育、医療、介護、福祉、交通のサービスがあることも人間の健康の維持、精神的向上にとって必須





の要素である。

また、安寧の都市の概念においては、マスとしての人間集団ではなく、個人の人間の幸福を中心課題として考えているので、個人の自立と市民的社会的な生活への参加を重視している。個人の心の健康も重要な要素であると考えている。高齢者であっても家に引きこもるのではなく、自立した人間として、社会において貢献することが求められる。それを支えるために、都市における快適な公共交通によるモビリティの確保が必要である。

最後に、安心安全かつ健康で生き生きと活動することを謳っており、たんに病気でないだけでなく、前向きに生き生きと生活することを述べている。そのような生活を支える効率的かつ持続可能な都市環境の整備が望まれる。

このような安寧の都市を創造し、維持発展させるには、経済的に雇用が安定し、都市の財政も健全でなければならない。このことは直接定義には述べていないが、都市経営の視点から考えると、都市財政の収入と支出のバランスをとることが重要となる。

現代の日本においては、人口減少、超高齢社会がすでに到来しており、その条件のもとでいかにして安寧の都市を創造するかが問題となる。とくに団塊の世代がすでに高齢者となり後期高齢者となる時代において、高齢者の急激な人口増加に対して、医療システム、交通システム、情報システム、エネルギーシステムなどを内包する都市社会システムを効率化し、持続可能とすることが喫緊の課題である。そのようなことは現代の都市において決して不可能ではなく、各界の叡智を結集して解決にあたらなければならない。

以上の議論からも明らかなように、安寧の都市は幅広い概念であり、また都市は複雑でダイナミックに変動する生き物のようなことを考慮すると、安寧の都市を造るには、工学、医学のみならず社会学、心理学、法学、経済学などの幅広い学問分野が融合してまさに学際的研究を行う必要がある。そのために安寧の都市ユニットが存在するが、このユニットにおいて、産官学の連携のもとに実際の都市をフィールドとして学際的な研究を促進し、安寧の都市を創造できる人材育成を進めていきたい。

『安寧の都市研究』は、上記のさまざまな分野の研究者、実務者の安寧の都市に関する研究成果や経験を発表し、議論することを目的としており、その意味でユニークである。これからの日本において、安寧の都市は重要な分野であるので、具体的な安寧の都市の構想、大災害からの復旧復興における医工連携、地域医療と都市計画の関連など、学際的な分野に関する論文を本雑誌に多数掲載し、都市社会の発展に寄与することを期待したい。